



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四一四号）

啓蟄 けいちつ

三月五日

神宮農業館の玉箒 たまほうき

春三月は、風の強い日が多く、とにかく埃や塵が立ちやすいときでもあります。季語に「春の塵」「春埃」があるように、雪や霜が解けて地表が乾燥すると、春の強風に吹かれて埃が舞い上がることが多いからです。そのため、塵を掃除する道具、箒を手にもたびたびです。

先日、神宮農業館で珍しい箒に出会いました。奈良の正倉院に宝物として伝わる箒、「子日目利箒」、「ねのひのめときほうき」といいます。この箒は、『万葉集卷二十』に収められた大伴家持の歌に「玉箒」と詠まれています。天平の時代、七五八年正月、最初の子の日のこと。

初春の初子はつねの今日の玉箒手に取るからにゆらぐ玉の緒お（四四九三番）
（新春の最初の子の日の今日、玉箒よ。
手に取ると玉の緒（ガラス）が鳴ることよ）

初子の日には、古く中国で、天子が自ら田を耕して豊穰を祈り、皇后は蚕室さんしつを掃いて養蚕ようさんの神を祀まつる儀式が行われており、奈良時代に日本でも取り入れられていました。今年一年の養蚕が豊かであることを願い、蚕部屋を掃く儀式、その箒に玉を飾ったことから玉箒という美しい名があるのです。神宮農業館にも、深い緑色をしたガラス玉（玉の緒）が枝先に飾られた箒が、逆さの状態で展示されていました。同行した方が、「正倉院宝物でも、なかなか正倉院展で見ることができず、ここで見られたことに驚いている」と少し興奮気味に話してくれました。さすがは神宮の博物館である農業館だと感心したものです。

箒はもともと「ははき」が転じた呼び名です。そのせいか、箒は出産と関わりが深く、安産のまじないに妊婦の腹部を撫でるなどがありますが、これは箒ほうき神が出産の時に立ち会うとされるからです。日々使っている箒も儀礼用を知ると、また違ってみえるものです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

五十鈴川桜まつり

古来、花見は桜の木に舞い降りた山の神様をもてなす行事でした。
奉納芸能や屋台などでごゆっくり五十鈴川の桜をお楽しみください。

日 時／3月下旬～4月上旬（桜の咲く頃）10：00～17：00

場 所／五十鈴川河川敷周辺

※雨天及び諸事情により、内容が一部変更または中止になる場合がございます。

● 花見屋台

団子、甘酒、花見弁当などの風流な屋台が並びます。
赤もうせんの椅子に腰をおろし、ごゆっくりお花見をお楽しみください

日 時／3月下旬～4月上旬（桜の見頃に合わせて）10：00～17：00

場 所／五十鈴川野遊びどころ側

● 夜桜のライトアップ

日没より、五十鈴川河川敷と五十鈴川野遊びどころ周辺をライトアップします。
五十鈴川の水面に映る幻想的な桜をお楽しみください。

日 時／3月下旬～4月上旬（満開の頃）日没～21：00 ※雨天中止

● 特別花見席のご案内（予約制）

桜を愛でながら花見料理とお酒を愉しむ特別席をご用意します。

日 時／3月下旬～4月上旬（桜の見頃に合わせて）10：00～

場 所／とうふや、野あそび棚

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

宇治の町を掘る

皇大神宮（内宮）の鳥居前町として発展してきた宇治おほらい町の歴史を検証するため、伊勢および皇學館大学考古学研究会が、学術発掘調査をした慶光院家敷地（同家菩提寺「常慶院跡」）市史・百五銀行内宮前支店敷地（内宮権禰宜・御師の「中川新神主邸跡」）・株式会社漆敷地（江戸時代宇治の自治行政を担った宇治会合所跡）の調査をしました。その成果について出土遺物の一部を紹介していただきながら、宇治の町の成り立ちについて岡田先生にお伺いします。

日 時／3月15日（金）13：30～15：00

講 師／岡田 登（皇學館大学名誉教授）

参加費／一般 1,400円、会員 900円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

五十鈴茶屋節気菓子

さわらびじょうよ
早 蕨 薯 蕷

早蕨は、万葉集に「萌え出づる春になりけるかも」と季節の便りにも詠まれています。よもぎ入りの薯蕷(じょうよ)生地でこし餡を包み、春の色そのままに淡い緑で染めました。

さ ほ ひめ
佐 保 姫

奈良の都から見て春を指す東方に位置する佐保山には、佐保姫という春の女神が宿っていました。つぶ餡を雪平と羊羹を重ねた生地で包み、姫君の衣に見立てました。

はる がすみ
春 霞

山々が霞む春の景色はどこか絵画を思わせます。羊羹と浮島でその一面をかたどり、陽炎もかすかに立ち昇る春霞の景色に似せました。